

《シリーズ「私の森語り」》

シリーズ  
「私の森語り」  
もりかた

「木のお酒とにの森づくり」



(株)島田木材  
代表取締役  
島田 優平

■自己紹介

大学を卒業後、吉野で林業の世界に足を踏み入れました。

吉野と言えば、樽丸林業たるまる。ご縁が、人間関係や現在のウイスキー製樽事業にもつながっています。

森の仕事は、人と人をつなぎ合わせてくれる魅力的な仕事だと感じています。

■活動内容

当社が所有する森林は、拡大造林をせずに広葉樹を残していたことが幸いし、現在の取組の方向性は、広葉樹資源の活用です。



今では貴重なミズナラ高齢林

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。



山には、ナラやトチ、ブナの高齢級立木が育っていますが、十五年くらい前から、その山にも思わぬ病虫害リスクが潜んでいることも経験しました。そのような時、「ナラ枯れになってしまいう前に、有効に木材を活用して、また、豊かな森へ再生していく取組ができないか」と、異業種の方から相談があり、樽づくりの事業をスタートさせました。



地元産のミズナラで製造した樽

まったくのゼロからのスタートでしたが、伝統ある南砺市井波なんとしいなみの木工や木彫刻の技術を活用し、ウイスキー樽を形にしてみました。地元では、ウイスキーボトルラズ事業が起業され、ウイスキーづくりを題材としたアニメ映画が製作中であるなど、何かが動き始めていると感じられずにはいられません。

また、国内外、様々な酒類関係の方から問い合わせをいただくようになり、ミズナラだけではなく、クロモジやミズメなどを匂いの原料やお酒に活用されるなど、建築材以外にも木の機能が貴重な役割を担っています。

ますます、森林には、社会や多くの事業の役に立たせることができる、私たち地域の人間の身の上にあった、共存可能な資源であることを痛感しています。

「山を活かさざるして、地域の再生はなし」



昨年完成した木造 (CLT) ウイスキー熟成庫

■メッセージ

生業において、時間が価値を生み出すという点で、各種事業が親和性をもっています。

木がお酒やアロマなどの価値を生み出すことが評価されてきた現代において、林業はこれからも夢と壮大なロマンがある事業であることを多くの人に伝えたいです。

○連絡先

富山県南砺市山見1755  
電話：0763-8210124  
<https://shinamoku.co.jp/>

